

# サタ☆くら通信

第29号

青森家庭少年問題研究会では、25年7月から、毎週土曜日の午前中、小学生・中学生を対象に、学習支援活動を行っています。

青森市母子寡婦福祉会の協力を得て、ひとり親家庭の子どもたち9人を対象に、ボランティア登録してくれた県立保健大学の学生さんなどが、子どもたちの学習進度に合わせて1対1を原則に勉強を教えています。

## ■キャンプの準備をしています

新型コロナウイルスの影響で、夏休み期間中での開催ができなくなったので、秋の連休9月19日（土）から21日（月祝）の2泊3日、モヤヒルズのケビンで「秋の勉強合宿」キャンプを行います。

市内中学校の部活動も、新型コロナの影響を受け、秋の中体連の日程も確定していないようですが、子どもたちについては、可能な限り、参加してもらえよう、臨時の送迎についても、計画していきたいと思っています。

先週22日は、再度計画の練り直しをし、学生さん数名とモヤヒルズの下見に行ってきました。



キャンプの2日目、予定していたセンターハウスの会議室が利用できなくなったため、青森大学のヒュッテをお借りし、日中

は、そこで勉強時間を設けることにしました。また、レクリエーションの「ヒルズサンダー」の試乗も行い、スリリングなアトラクションに期待感も高まっています。

## ■子どもたちの学習計画も準備中です。

子どもたちには、このキャンプで集中的に勉強したい内容を決めてもらうことにしました。

「得意教科を伸ばす」「苦手教科を克服する」「まんべんなく科目に取り組む」など、学生さんと相談しながら、一人ひとりの学習計画を立てています。



必要な教材も、キャンプの経費で賄うこととしました。

キャンプでは、新型コロナの感染防止のため、県立保健大学の協力をいただき、看護学科の伊藤先生もスタッフとして参加してくださることとなりました。

大変心強いですね。

キャンプの情報は、随時発信していきます。

